

中央区内景气动向调查

平成 30 年 12 月调查结果

平成 31 年 1 月 24 日

中央区

総 括

平成 30 年 12 月の動き

中央区内における 12 月の現状判断 D I は合計で 52.0 と、前回調査から 2.0 ポイント上昇している。景気の先行き判断 D I は合計で 48.0 と前回調査から 5.5 ポイント低下している。

図表 景気の現状判断 D I、先行き判断 D I（合計）

(D I)	平成30年			前回調査 からの変化
	8月	10月	12月	
合計				
現状判断 D I	48.5	50.0	52.0	(2.0)
先行き判断 D I	55.0	53.5	48.0	(-5.5)

目 次

調査の概要	1 頁
調査結果	
1 景気の現状に対する判断	2 頁
2 景気の先行きに対する判断	3 頁
3 現在の景気水準に対する判断（参考）	4 頁
4 判断理由	
(1) 景気の現状に対する判断理由着目点	5 頁
(2) 景気の現状に対する判断理由	6 頁
(3) 景気の先行きに対する判断理由	8 頁
（別紙）調査客体の分野・業種別人数構成	10 頁
中央区内景気動向調査 調査票	11 頁
(1) 家計動向関連	
(2) 企業動向関連	

調査の概要

1 調査の目的

中央区内において景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を得て、地域の景気動向を迅速かつ的確に把握し、効果的な施策を実施するための基礎資料とすることを目的とする。

2 調査の客体

中央区内の家計動向関連、企業動向関連で、代表的な経済活動の動向を敏感に反映する現象を観察できる業種において、適当な職種の中から選定した50人を調査客体とする。調査客体の分野・業種別人数構成については、別紙を参照のこと。

3 調査事項

- (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
- (2) (1)の理由
- (3) (2)の追加説明及び具体的状況の説明
- (4) 景気の先行きに対する判断（方向性）
- (5) (4)の理由
- (参考) 景気の現状に対する判断（水準）

4 調査月及び調査期間等

調査月は年6回の隔月に当月時点で実施、調査期間は調査月の中旬約1週間で、平成30年12月調査の調査票発送は12月7日（金）、回答期限は12月17日（月）である。

5 調査機関

本調査は中央区が主管し、委託先である株式会社日本経済研究所を取りまとめ調査機関として実施したものである。

6 有効回答率

調査客体50名に対し、有効回答客体は50名、有効回答率は100%であった。

7 DIの算出方法

景気の現状、または、景気の先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各回答区分の構成比（%）に乗じて、DIを算出している。

評価	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0 . 7 5	+ 0 . 5	+ 0 . 2 5	0

1 景気の現状に対する判断

3か月前と比較しての中央区内における現状判断DIは合計で52.0と、前回調査から2.0ポイント上昇している。分野別にみると、家計動向関連DIは53.0と、前回調査から1.0ポイント、企業動向関連DIは51.0と、前回調査から3.0ポイント、それぞれ上昇している。構成比では、「やや良くなっている」と回答した人の割合が6.0ポイント増加し、「良くなっている」「やや悪くなっている」「悪くなっている」と回答した人の割合がそれぞれ2.0ポイント減少した。

図表1-1 各分野における景気の現状判断DIの推移表

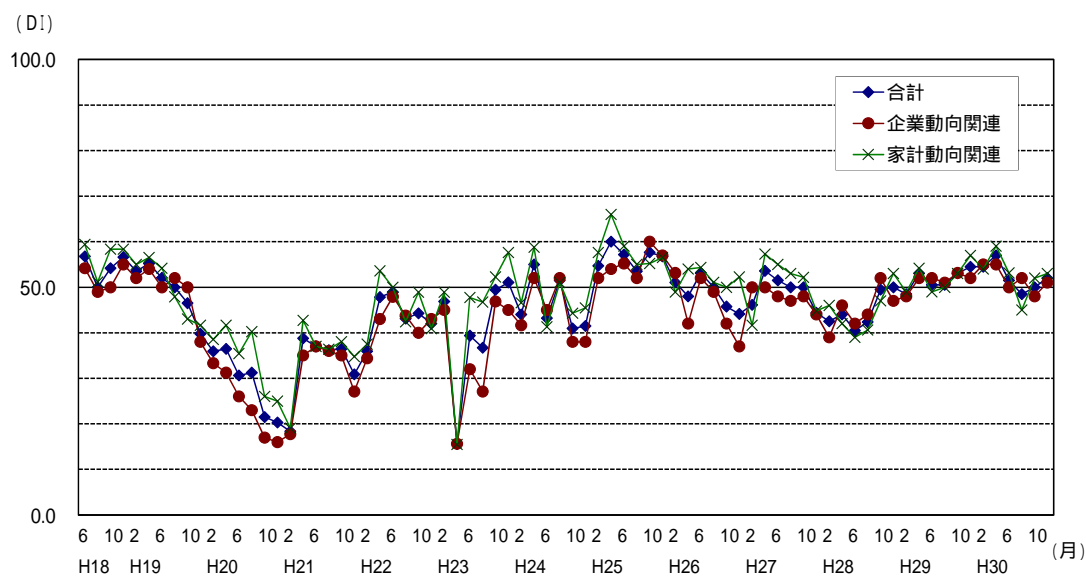
(DI)	平成30年			
	8月	10月	12月	(変化幅)
合計	48.5	50.0	52.0	(2.0)
家計動向関連	45.0	52.0	53.0	(1.0)
小売関連	50.0	46.4	50.0	(3.6)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	50.0	57.1	53.6	(-3.5)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	52.0	48.0	51.0	(3.0)
製造業	45.0	50.0	45.0	(-5.0)
非製造業	53.8	47.5	52.5	(5.0)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表1-2 構成比

年	月	良く	やや良く	変わらない	やや悪く	悪く
		なっている	なっている		なっている	なっている
平成30年	8	0.0%	30.0%	42.0%	20.0%	8.0%
	10	4.0%	22.0%	46.0%	26.0%	2.0%
	12	2.0%	28.0%	46.0%	24.0%	0.0%
(変化幅)		(-2.0)	(6.0)	(0.0)	(-2.0)	(-2.0)

図表1-3 各分野における景気の現状判断DIの推移



2 景気の先行きに対する判断

2～3か月先の中央区内における景気の先行き判断DIは合計で48.0と前回調査から5.5ポイント低下している。分野別にみると、家計動向関連DIは50.0と、前回調査から5.0ポイント、企業動向関連DIは46.0と、前回調査から6.0ポイント、それぞれ低下している。構成比では、「やや悪くなる」と回答した人の割合が12.0ポイント増加し、「やや良くなる」と回答した人の割合が10.0ポイント減少した。

図表2-1 各分野における景気の先行き判断DIの推移表

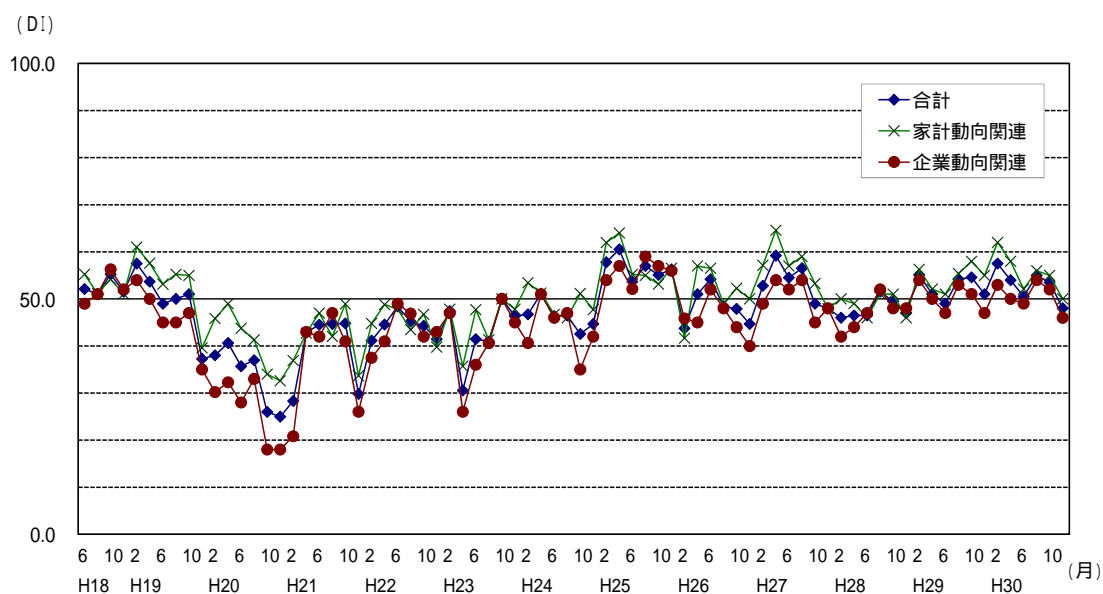
(DI)	平成30年			
	8月	10月	12月	(変化幅)
合計	55.0	53.5	48.0	(-5.5)
家計動向関連	56.0	55.0	50.0	(-5.0)
小売関連	53.6	51.8	50.0	(-1.8)
飲食関連	-	-	-	(-)
サービス関連	53.6	60.7	60.7	(0.0)
住宅関連	-	-	-	(-)
企業動向関連	54.0	52.0	46.0	(-6.0)
製造業	50.0	50.0	50.0	(0.0)
非製造業	55.0	52.5	45.0	(-7.5)

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

図表2-2 構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる
平成30年	8	2.0%	36.0%	42.0%	20.0%	0.0%
	10	2.0%	32.0%	46.0%	18.0%	2.0%
	12	0.0%	22.0%	48.0%	30.0%	0.0%
(変化幅)		(-2.0)	(-10.0)	(2.0)	(12.0)	(-2.0)

図表2-3 各分野における景気の先行き判断DIの推移



3 現在の景気水準に対する判断（参考）

現在の景気的水準自体に対する判断は、以下のとおりであった（注）。

図表 3 - 1 各分野における景気の現状水準判断D Iの推移

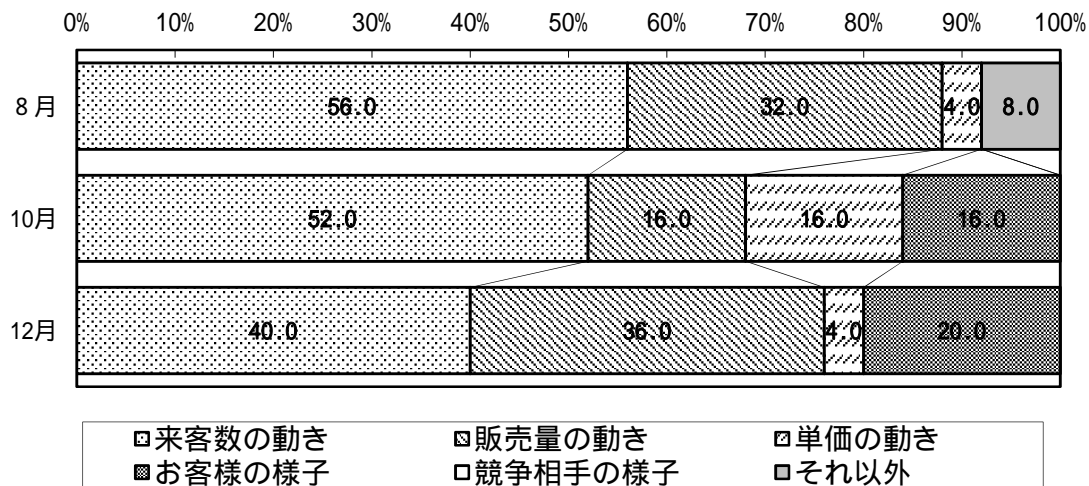
(D I)	平成30年		
	8月	10月	12月
合計	51.5	49.0	54.5
家計動向関連	47.0	47.0	54.0
小売関連	51.8	41.1	51.8
飲食関連	-	-	-
サービス関連	50.0	53.6	57.1
住宅関連	-	-	-
企業動向関連	56.0	51.0	55.0
製造業	45.0	45.0	50.0
非製造業	58.8	52.5	56.3

(備考)家計動向関連のうち、飲食関連、住宅関連については、サンプル数の関係で非公表としている。

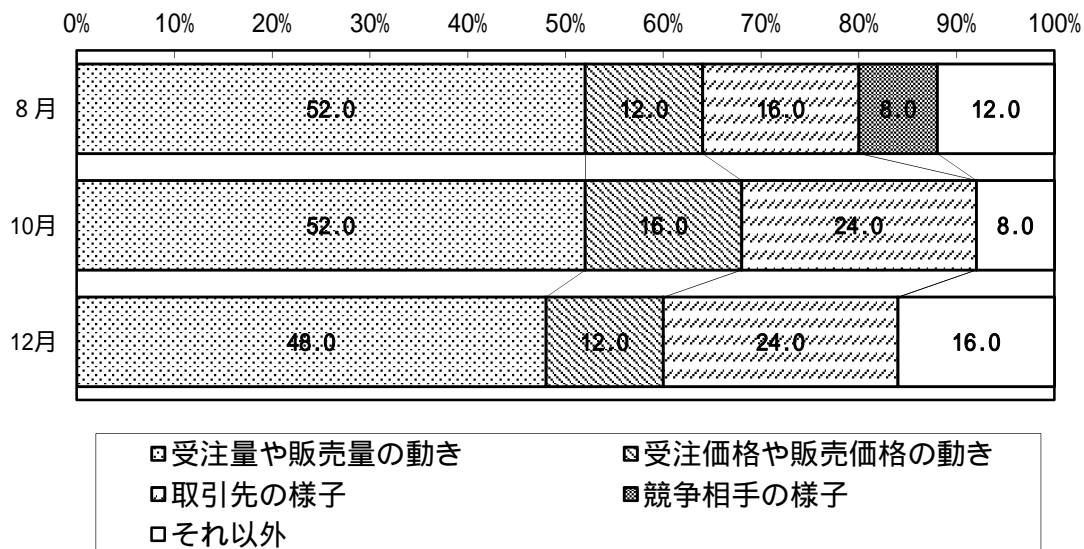
(注)景気の現状をとらえるには、景気の方加性に加えて、景気的水準自体について把握することも必要と考えられることから、参考までに掲載するものである。

4 (1) 景気の現状に対する判断理由着目点

家計動向関連



企業動向関連



注) 本グラフは景気の現状に対する判断理由着目点の構成比を示している。
割合が0%の場合、数値は表記していない。

4 (2) 景気の現状に対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	高級レストラン (経営者)	販売量の動き	・8~10月と前年を下回っていたが、11月には来客数、売上共に平均を上回ってきている。上昇の要因はつかめていないが、地域的に大型オフィスビルの竣工が複数あり、社用接待の機会が増えているように感じる。
	やや良くなっている	一般小売店[事務用品](営業担当)	販売量の動き	・最近の動きとして、年末ということもあり来客数は10%程度良くなっている。また、金額は別として、問合せ件数も増えている。
		一般小売店[食品](店長)	販売量の動き	・自家製品の売行きが順調で、全体の売上も少しずつ伸びている。
		百貨店(総務担当)	販売量の動き	・コートやマフラーなどの防寒アイテムの動きが鈍いものの、特選衣料雑貨、宝飾品、食料品などの売上は順調に推移している。
		百貨店(総務経理担当)	来客数の動き	・9月以降、客足は微増している。ただし、来年は非常に心配な年になるとみている。
		一般レストラン(経営者)	お客様の様子	・平日は客の動きが悪いので変わらないが、週末は忙しい。
	変わらない	一般小売店[文具](販売担当)	販売量の動き	・インパウンド需要が引き続き好調である。
		百貨店(総務担当)	お客様の様子	・気温の高い冬となっており、今売らなくてはならないコート等の防寒衣料の動きが鈍い。
		百貨店(広報担当)	お客様の様子	・消費が二極化している。緩やかな上昇基調にあるものの、3か月前と比べて明らかに良くなっているわけではない。
		衣料品専門店(店長)	単価の動き	・例年に比べて、セールのタイミングが全体的に早くなり、定価商品を販売する期間が年々短くなっている。客は価格に対してシビアである。
		通信会社(営業担当)	販売量の動き	・年末の駆け込み需要も例年に比べて少なく、販売数に大きな変化はみられない。
		その他レジャー施設(経営者)	来客数の動き	・年初より落ち込んだ来客数がいまだに回復せず、ボーナスが入ったらという期待も、どうも空振りに終わりそうである。
		やや悪くなっている	スーパー(店長)	来客数の動き
	スーパー(店長)		来客数の動き	・来客数、販売量共に減少傾向にある。例年以上に客の財布のひもが固いように感じる。
	衣料品専門店(店長)		来客数の動き	・12月に入ってもなかなか気温が下がらず、手袋やマフラーなど季節雑貨の動きが例年より鈍い。その影響もあり、来客数が大幅に減少している。
	一般レストラン(経営者)		来客数の動き	・市場の移転に伴い、早朝の来客数が激減しているが、昼前からは移転前よりもやや多くなっているように感じる。
	都市型ホテル(経営者)		来客数の動き	・毎年、年末に向けて来客数が減少していく。
悪くなっている	-	-	-	-
企業 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	印刷業・製本業(営業担当)	取引先の様子	・1回の発注ロットは少なくなっているが、その分、発注回数が増加する傾向にある。
		輸送業(従業員)	受注量や販売量の動き	・前年同月に比べて受注量が増えている。
		不動産業(企画担当)	受注量や販売量の動き	・オフィスの需給状況としては、テナントを募集すればすぐに申込が入る状況であり、実際の空室率は公表されている数字よりも更に低くなっている。
		卸売業[機械器具](営業担当)	受注量や販売量の動き	・年内納入の案件があるため、12月は若干良い状態である。
その他サービス業[ビルメンテナンス](営業担当)	受注価格や販売価格の動き	・急に滑り込んでくる仕事が多々あり、どこも受けきれないような内容もあったため、通常よりも比較的良い価格で受注することがある。		

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
	変わらない	出版業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・出版は、年末を迎えたからといって、10～20年前のような大きな需要はなく、販売量は例月と変わらない。
		通信業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・売上の実績等は堅調に推移している。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	受注量や販売量の動き	・このところ低調なりに安定している。
		経営コンサルタント	取引先の様子	・2020年に向けて、改築工事が多く、空室が少なくなっている。事務所などの賃貸物件が上昇している。
	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	それ以外	・景況感は小幅改善との様相もあるなか、人手不足を背景とした人件費、募集費等の増加が、依然として収益を圧迫しているのが実状である。	
	やや悪くなっている	その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	それ以外	・中小企業勤めの人から賞与の減額や支給がないという話を聞く。
	悪くなっている	-	-	-

4 (3) 景気の先行きに対する判断理由

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	一般小売店[事務用品] (営業担当)	・年度末へ向けて問合せ等が増えていくのと、やはり東京オリンピックに向けた動きが多少あるとみている。金額は置いておくとして、数で稼げれば良くなる。
		百貨店(総務担当)	・高額品や免税売上が引き続き伸長している。合わせて、地域への来街者を含め、来客数も増加している。
		衣料品専門店(店長)	・実生活においてまで好景気を実感するには、少し時間が掛かるのではないかと。
		旅行代理店(店長)	・ゴールデンウィーク10連休という特需要素がある。
		通信会社(営業担当)	・例年2～3月には客の移動の時期を迎えるので、販売数が増える。
	変わらない	一般小売店[靴](店長)	・米中の経済問題が今後の景気に影響する。解決はしないが、現状維持が続くので、変わらない。
		一般小売店[文具] (販売担当)	・インバウンドは引き続き好調に推移するが、国内の購買が冷え込む。
		一般小売店[食品] (店長)	・工事現場の状況など町全体の様子に変化はなさそうである。
		百貨店(総務担当)	・年末年始、中国の正月にあたる2019年2月4～11日の春節等の各種イベントで盛り上がることはあるものの、売上のすう勢は横ばいで変わらない。
		百貨店(広報担当)	・消費税増税前の駆け込み需要が一定程度ある。また、東京オリンピック前の企業の設備投資も積極的である。一方で、株価は不安定で、米中貿易摩擦のマイナス心理も働き、不安定な要素も大きい。
		スーパー(店長)	・現状維持もしくはは下降する。
		スーパー(店長)	・プラスになる要因が今のところ見当たらない。
		コンビニ(店長)	・直近3か月の売上、来客数はほぼ前年並みであり、客の様子からも、購買に特に目立った変化はない。
		一般レストラン(経営者)	・11、12月は例年になく修学旅行生が多い。年末年始はそれなりに忙しいが、その後が暇なので変わらない。
		都市型ホテル(経営者)	・世の中の景気が上向いていく兆しが見えない。
		通信会社(営業担当)	・当社の客の不必要な物は買わないという買い控えの姿勢は変わらない。
		競馬場(職員)	・客の購買状況を見てもずっと横ばいなので、今後2～3か月も変わらない。
		その他レジャー施設 (経営者)	・今年は年初より落ち込んだまま、現在も回復の兆しが見えず、めども立たない。これからも今の悪い状態がしばらくは続くのではないかと。
やや悪くなる		一般小売店[和菓子] (経営者)	・政治不信で、経済も不安定な状態になるのではないかと。消費税の軽減税率もはっきりせず、不安がある。
	百貨店(総務経理担当)	・中国人バイヤーによる思いがけない化粧品の大量購入がある。規制前の駆け込み需要と思われる。	
	高級レストラン(経営者)	・年末の売上は大幅増となるが、今後は休日の日数も増加するとみられ、厳しくなる。景気の動きも社会的に定まらず、つかみにくい。	
	高級レストラン(副店長)	・予約数、宴会数の状況を見ると、2～3月は少なくなる。	
	一般レストラン(経営者)	・今月は年末があり良くない。年明けは、来客数を増やすような個店の頑張りが必要である。	
悪くなる	-	-	
企業 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	印刷業・製本業(営業担当)	・年度末に向かい、例年どおり注文が増える予定である。
		輸送業(従業員)	・受注量が増える方向で動いているため、やや良くなる。
		不動産業(企画担当)	・現在建設中のオフィスビルやマンションの引き合いが多く、竣工前に入居者がほとんど決まっている。
		卸売業[機械器具] (営業担当)	・1～3月の年度末に受注がかなり集中するため、やや良くなる。
		その他サービス業[ビルメンテナンス] (営業担当)	・平成の残りシーズン内で、済ませなければならないものが多々ある。さらに、消費税率の変動にも左右される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	出版業（営業担当）	・年度末、新年度となるが、今のところ大きな売上となるものがないし、人材不足で仕事もうまく回っていない。
		建設業（経営者）	・現状のまま推移していく。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・各業態とも人手不足の感が強く、相応に活発な企業活動が見られる一方で、賃金はさほど上昇しておらず、消費には反映されていないようである。加えて、米中貿易摩擦の動向や、ここしばらく続いていた半導体市況の好調に変化がみられており、これらを懸念材料として中立と判断している。
		卸売業〔繊維・衣服等〕（営業担当）	・特別な状況がないため、変わらない。
		卸売業〔機械器具〕（経営者）	・今までと同様、極端な変動はないのではないか。
		卸売業〔機械器具〕（従業員）	・公共预算は相変わらず厳しい状況が続いているが、今年度は受注に恵まれている。調達コストの高止まりは当分続くので、収益面の改善に努力が必要である。
		経営コンサルタント	・繁華街には人が多く出ているが、各店舗の売上が伸び悩んでいる。インターネット販売に流れているのかもしれない。
	その他サービス業〔ビルメンテナンス〕（営業担当）	・慢性的な人手不足、原材料価格の上昇、消費税増税等が先行き不透明感を増幅している。	
	やや悪くなる	出版業（経営者）	・東京オリンピック需要は建設等を軸に上向いているが、2020年以降は、その反動による景気悪化が目に見えている。
		建設業（営業担当）	・受注量の伸びが見込めないため、やや悪くなる。
		建設業（営業担当）	・東京オリンピック工事が完成近くなり、工事量が減少する。
		通信業（営業担当）	・米中の貿易摩擦、イランへの制裁等、国際情勢でマイナス要因が多い。
		通信業（営業担当）	・複数の業界の取引先から先行き不安の声が多く聞かれる。よく耳にする好景気の話は少ない。また、下請は利益面で厳しい状況が続いているとのコメントも少なくない。
		金融業〔証券〕（営業担当）	・英国のEU離脱に見通しが不明等、明るい話題がない。
卸売業〔飲食料品（鮮魚）〕（経営者）		・市場の移転で客が減少傾向にある。以前が良過ぎた。	
その他サービス業〔造園・園芸〕（営業担当）	・現状が良くないため、消費動向に影響がある。消費税増税前に一時的な緩和があると思うが、節約意識は高まる傾向にある。		
悪くなる	-	-	

(別紙) 調査客体の分野・業種別人数構成

分野	業種	調査客体数 (人)
合計		50
家計動向関連		25
	小売関連	14
	商店街・一般小売店	5
	商店街代表者	0
	一般小売店経営者・店員	5
	百貨店	4
	百貨店売場主任・担当者	4
	スーパー	2
	スーパー店長・店員	2
	コンビニエンスストア	1
	コンビニエリア担当・店長	1
	衣料品専門店	2
	衣料品専門店経営者・店員	2
	家電量販店	0
	家電量販店経営者・店員	0
	乗用車・自動車備品販売店	0
	乗用車・自動車備品販売店経営者・店員	0
	その他小売店	0
	住関連専門店経営者・店員	0
	その他専門店経営者・店員	0
	その他小売の動向を把握できる者	0
	飲食関連	4
	高級レストラン経営者・スタッフ	2
	一般レストラン経営者・スタッフ	2
	スナック経営者	0
	その他飲食の動向を把握できる者	0
	サービス関連	7
	旅行・交通関連	3
	観光型ホテル・旅館経営者・スタッフ	0
	都市型ホテル・旅館経営者・スタッフ	2
	旅行代理店経営者・従業員	1
	タクシー運転手	0
	通信会社	2
	通信会社社員	2
	レジャー施設関連	2
	観光名所・遊園地・テーマパーク職員	0
	ゴルフ場経営者・従業員	0
	パチンコ店経営者・従業員	0
	競輪・競馬・競艇場職員	1
	その他レジャー施設職員	1
	その他サービス	0
	美容室経営者・従業員	0
	その他サービスの動向を把握できる者	0
	住宅関連	0
	設計事務所所長・職員	0
	住宅販売会社経営者・従業員	0
	その他住宅投資の動向を把握できる者	0
	その他家計の動向を把握できる者	0
企業動向関連		25
	農林水産業従業者	0
	鉱業経営者・従業員	0
	製造業経営者・従業員	5
	食品製造業	0
	繊維工業	0
	家具及び木材木製品製造業	0
	パルプ・紙・紙加工品製造業	0
	出版・印刷・同関連産業	5
	新聞業	1
	出版業	2
	印刷業・製本業	2
	その他出版・印刷・同関連産業	0
	化学工業	0
	石油製品・石炭製品製造業	0
	プラスチック製品製造業	0
	窯業・土石製品製造業	0
	鉄鋼業	0
	非鉄金属製造業	0
	金属製品製造業	0
	一般機械器具製造業	0
	電気機械器具製造業(精密機械を含む)	0
	輸送用機械器具製造業	0
	その他製造業	0
	非製造業経営者・従業員	20
	建設業	4
	輸送業	1
	通信業	2
	金融業	2
	不動産業	1
	卸売業	6
	繊維・衣服等	2
	飲食品	1
	建築材料・鉱物・金属材料等	0
	機械器具	3
	その他卸売業	0
	サービス業	4
	広告代理店・新聞販売店[広告]	0
	司法書士・経営コンサルタント・会計事務所職員等	1
	コピーサービス業	0
	その他サービス業	3
	その他非製造業	0
	その他企業の動向を把握できる者	0